

創世記4章 「カインの道」

1A 支配する罪 1-16

1B 殺人 1-7

2B 悔い改めぬ心 8-16

2A 広がる種 17-26

1B カインの子孫 17-24

2B セツの子孫 25-26

本文

創世記 4 章を学びます。3 章において、私たちは罪の始まりを読みました。アダムが罪を犯し、それからアダムと妻エバは、エデンの園から追放されました。そして今日は、罪による悪の拡がりについて見ていきます。世界に蔓延している罪と悪、これが「カインの道」というように聖書では表現されています。「ユダ 11 忌まわしいことです。彼らは、カインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、コラのようにそむいて滅びました。」

1A 支配する罪 1-16

1B 殺人 1-7

4:1 人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、主によってひとりの男子を得た。」と言った。

ここの「知った」は、性的に知ったということ、つまり夫婦の関係を持ったということです。そしてエバは、カインのことを「主によって、ひとりの男子を得た。」と言っていますが、ここをもっと正確に訳しますと、「ひとりの男子、主を得た」になります。つまり、この男子が主である方、つまりメシヤのことを表しています。エバは前回私たちが読んだ、神の約束がカインによって実現したと思ったのです。悪魔のかしらを打ち砕く「女の子孫」が、この子であると思っていたのです。もちろん、その期待はすぐに裏切られます。創世記、いや旧約聖書はこれから、自分の子孫にメシヤを期待するようになります。ユダヤ人の女からメシヤが現れることを期待します。

4:2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。4:3 ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。4:4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、それも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。4:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。

表面的に読めば、なぜカインのささげ物が受け入れられなかったのか、分からないと思います。

けれども使徒ヨハネは、「1ヨハネ 3:12 カインのようであってはいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行ないは悪く、兄弟の行ないは正しかったからです。」と記しています。本文もじっくりと見てみましょう。

まず大事なものは、アベルの捧げ物に注目することです。「羊の初子」とあります。初めに生まれてくる雄の羊です。これは最も大切であり、価値のあるものです。これを神に捧げました。礼拝とは、自分の最も大切なものを、魂でさえも、すべてが神のものであり、主のものであることを告白する所です。なぜなら、神が真剣に、ご自分の子キリストを私たちに与えられることによって、私たちがどれだけ高価で尊いかを示してくださったからです。そして、「自分自身で、持ってきた」とあります。自分自身が神への礼拝に関わった、ということです。他の人に任せるのではなく、自分自身が神に近づきました。

つまり言い換えると、カインはこの二つのどちらも行なわなかったということです。地の作物の中でも、余剰のもの、取るに足りないものを捧げたのでしょうか。そして、自分自身ではなく、誰か他のものに言いつけて捧げたのでしょうか。自ら礼拝を捧げに来ていません。彼は、神に対して誠実ではなかった、神から心が離れていたのです。

そして、さらに根本的な問題があります。3章には、「土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。(17 節)」とありました。ですから、土地から出てくる作物を神に捧げたこと自体が、神がすでに語られたことをないがしろにし、聞いていなかったこととなります。彼は、自分の職業が農夫だったから、その自分の労力で作ったものを神の前で認められようとしていたのです。これが、自分の行ないによって神に自分を認めてもらおうとしている姿です。「私はこれまで、一生懸命やってきたのだから、それで構わないではないか。神がいるなら、それぐらい認めてくれよ。」ということになります。けれども、既に罪をもって生まれてきた者は、どんなに正しいと思われることを行なっても、神の基準を満たすことはないのです。イザヤ書 64 章 6 節に、「私たちの義はみな、不潔な着物のようです。」とあります。私たちが正しいと思っているものであっても、神の目には汚らしい着物のようにはしか見えないのです。

ではアベルは、どうでしょうか？神はアダムとエバに、「皮の衣」を作って着せてくださいましたね。犠牲の動物によって神に近づくことができるという方法を神はすでに与えてくださっていました。アベルはこれをそのまま受け入れて、それで自分の羊から全焼のいけにえを取り、主に捧げたのです。それで主は彼の捧げ物を受け入れてくださいました。ですからアベルとカインの違いは、「信仰」にあります。ヘブル書 11 章 4 節に、「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。」とあります。信仰というのは「狭い門」です。私たちのあらゆる努力は、神の前で無に等しいのです。ただ、キリストによってのみ、神の前に近づくことができることを認める必要があります。

4:6 そこで、主は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。4:7 あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」

カインは落ち込んでいました。「顔を伏せている」とありますね。自分で間違っていることを分かっていたのです。けれども、それを認めることをしたくなかったので、自分の心のうちにある憤りを内に閉まっておいたのです。カインの道とは、自らをへりくだらせない道です。罪を告白しない道です。神の光のところに来て、自分が持っているものをすべて明らかにしていただくことをしないのです。自分が正しいという思いを捨てられず、神が正しいということ認めることをしないのです。神よりも自分が正しいと思っているのです。でも、自分が間違っていることはうすうす分かっています。だから、ふてくされているのです。

そして神は、悔い改めの機会を与えておられます。「罪が戸口で待ち伏せしている。あなたを恋い慕っている。」これは、3章にあった女が男を恋い慕う、と同じ言葉です。つまり罪がカインの心を自分のものにしたいと思っている、という意味です。けれども神は、かえってそれを治めなさい、と励ましておられます。つまり、私たちが自分の思いにある罪を、神の方法できちんと処理しないと、それが大きくなって、いつしか自分を支配するようになる、ということです。ヤコブ書に、その増幅する罪の表現が書かれています。「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。(1:15)」です。ですから、そうならないうちに捨てる必要があります。箴言には、「自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。(28:13)」とあります。

2B 悔い改めぬ心 8-16

4:8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。

カインは悔い改めませんでした。心に苦みを宿していたので、殺意に至りました。そしてそれを実行したのです。使徒ヨハネが、カインの行ないは悪いと言ったのは、これです。兄弟を憎む者は人殺しをしている、と彼は言いました。イエス様も、兄弟に対して馬鹿と言う者は、神の最後の裁きで裁かれなければいけない、と言いました。私たちは、手を出していないかもしれませんが、けれども数多くの心が気づいていきます。それは人を押しつける、自分を捨てないで相手を傷つけている、これは表には出ていないけれども、流血の罪なのです。

私たちの社会では戦争は起きていません。人殺しは、幼児の育児放棄など、いろいろな形で社会問題にはなっていますが、自殺という形では約三万人が毎年起こっています。私は自殺した人々を責めているのではなく、むしろ神から背を向けた社会に生きていれば、多くの人が死を選び

取るということです。それが戦争という形にもなるし、あるいは自殺と言う形にもなるということです。

4:9 主はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないですか。」4:10 そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。

カインの道は、「嘘」にも表れます。これがこの世で最初の嘘でした。神はご存知です。神は、「どこにいるのか。」と聞かれた時に、彼にやはり罪意識を持って、自ら告白する機会を与えておられたのでした。

4:11 今や、あなたはその土地にのろわれている。その土地は口を開いてあなたの手から、あなたの弟の血を受けた。4:12 それで、あなたがその土地を耕しても、土地はもはや、あなたのためにその力を生じない。あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となるのだ。」

アダムに対しては、汗水流して苦しみはあるけれども、そこから収穫物があることは話しておられました。けれどもカインは、その収穫物さえなくなると宣言されています。カインは、定住生活はもはやできなくなります。

4:13 カインは主に申し上げた。「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。4:14 ああ、あなたはきょう私をこの土地から追い出されたので、私はあなたの御顔から隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人とならなければなりません。それで、私に会う者はだれでも、私を殺すでしょう。」

カインは悔い改めることをせず、自分の身に起こったことに文句を言っています。アダムとは異なりますね、彼は自分の罪によって畑を汗して耕さないといけなくなったことを知り、またエデンの園を出なければいけなかったことを知りました。そして、神の贖いを待ったのです。それが彼にはありません。これを「自己憐憫」と呼びます。世における初めの自己憐憫です。放蕩息子のことを思い出してください、彼は自分が乞食になり、豚の餌さえ食べたいほどひもじくなった時に、自分は息子と呼ばれる資格はないとして、父の家に戻りました。自分のしたこと責任を取ったのです。

そして、殺されなければいけないという恐れがあります。つまり、すでにカインの他に人々がいたことが分かります。アダムとエバは何もカインとアベルを生んだ後に、誰も生まなかったということではありません。5章4節には、息子たち娘たちを生んだと書いてあります。そして、彼が恐れたのは、自分がしたことによって自分もそのことが襲ってくると知っていたからです。蒔いたものを刈り取るということを潜在的に知っていたのです。

4:15 主は彼に仰せられた。「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」そこで主は、彼に出会う者が、だれも彼を殺すことのないように、カインに一つのしるしを下された。

4:16 それで、カインは、主の前から去って、エデンの東、ノデの地に住みついた。

神は、反抗したカインにさえ憐れみを示されました。七倍の復讐という「七」の数字は、神の数、完全数を示します。したがって、神が完全に彼を守られるとしたのです。しかしカインは、「主の前から去って」とあります。これは地理的なこともあります、霊的にもそうでしょう。彼は、神からの守りは感謝していますが、神ご自身につながる気持ちはないのです。そして、アダムとエバの家族はエデンの園の近くに住んでいたと考えられます。彼らはエデンの園の東にいたのですが、さらに東のほうにあるノデの地に住み着きました。

このカインとアベルの話は、新約聖書に何回となく引用されていますが、イエス様は、神の預言者を殺して血を流したイスラエル人、そしてイエス・キリストご自身を死に定めたユダヤ人指導者に当てはめておられます。「それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためです。(マタイ 23:35)」数多くの国で、イエス・キリストを信じる者を迫害し、ある時は殺すことが行われています。けれども、実は私たちは心の中で二つの選択があります。それはアベルのように、キリストによって神が与えてくださった備えを受け入れるか、それともカインのように自分のこれまでのやり方、生き方を押し通して、「キリストなんか、要らない」とこの方を押しつけてしまうこともできるのです。キリストにあって自分に死ぬか、あるいは自分を生かして、キリストを殺してしまうか、のどちらかなのです。

2A 広がる種 17-26

神はこうして、このカインの殺人の種が、人類に広がっていくのをこれから見ていかれます。これからもっと悪くなります。神は恵みをもって、これを耐え忍ばれたのですが、ついにノアの時代に世界が暴虐に満ちます。そこで水によって世界をさばき、裁かれた後にノアによって人々を再び祝福します。

1B カインの子孫 17-24

4:17 さて、カインは、その妻を知った。彼女はみごもり、エノクを産んだ。カインは町を建てていたので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。

ここで神の言葉を信じていない多くの人は、「カインの妻はどこから出てきたのか？」と言います。この批評への回答は簡単です。先ほどの創世記5章4節、「アダムは…息子、娘たちを生んだ」とありますね。カインとアベルを生んだ後に、セツを生み、そしてその他にも娘たち、また他の息子たちを生んでいるのです。創世記に出てくる子供は、それだけで全てではないのです。そしてこの時期は、まだ遺伝子上の汚染がない状態でしたから、家族の中で近親の中で結婚しても大丈夫でした。後で、近親相姦はモーセの律法の中で禁じられるようになります。

そしてカインが「町」を建てています。これは、神が言われたことに反することです。神は彼をさらい人にするように定められたのに、彼はそれを嫌い定住して町を建てたのです。これは 10 章、ニムロデが町を建てていくこと、11 章でバベルの塔を建てていくことにつながります。これを言い換えるならば、「神によって守られるのではなく、自分で安全保障を作る。」と言ってよいでしょう。これが世の制度であり、神なしで自分を守るようにさせています。

4:18 エノクにはイラデが生まれた。イラデにはメフヤエルが生まれ、メフヤエルにはメトシャエルが生まれ、メトシャエルにはレメクが生まれた。4:19 レメクはふたりの妻をめとった。ひとりの名はアダ、他のひとりの名はツィラであった。4:20 アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。4:21 その弟の名はユバルであった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。4:22 ツィラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。トバル・カインの妹は、ナアマであった。

カインの子孫から文明が生まれました。牧畜業、そして音楽、それから鉄鋼業が生まれています。最後の鉄鋼業は驚くべきことです。「鉄」は、人間の歴史の中で紀元前千年頃にならないと普及していないものです。イスラエルの初代王のサウルがペリシテ人と戦った時に、イスラエル人には鍛冶屋がいなかったという記述があります(1サムエル 13:19)。したがって、ノアの時代の洪水の前の時代は、原始的どころか、非常に文明が発達していたと考えられます。

ところがカインの暴力の血は、子孫に受け継がれています。

4:23 さて、レメクはその妻たちに言った。「アダとツィラよ。私の声を聞け。レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。私の受けた傷のためには、ひとりの人を、私の受けた打ち傷のためには、ひとりの若者を殺した。4:24 カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。」

文明が発達したと同時に、暴力が増し加わりました。ちなみに、この妻たちの名前、アダは飾るという意味で、ツィラは輝くという意味です。性的快樂も含まれた意味です。そして、レメクは自分を傷つけた若者を殺したことを誇って妻に自慢しています。神が復讐してくださると言われていたのに、自分の手で復讐することを豪語しています。これとキリストの命令を照らし合わせるとよいです。イエスはペテロに、七の七十倍赦しなさいと言われました。カインの道が復讐と暴虐ですが、キリストの道は赦しと平和であります。そして、このカインの子孫によって始まった文明と暴力が世界に満ちてしまった状態を、ノアの時代で見るとようになります。

私たちはしばしば、間違った考えを持っていますね。文明が発達すれば、人々がより文明開化すれば、人は進歩するのだという考えです。いや、文明的に、科学的に進歩したかに見える人類が、今、もっとも野蛮になっていると言えないでしょうか？暴力が称賛されている社会に生きています。快樂の中に生きています。神はいなくて生きられると思っている所に、これら邪悪な行ないがはび

こっているのです。

2B セツの子孫 25-26

けれども神は、これであきらめたりなさいません。新たな子孫を与えられることによって、希望を絶やすことはなさいませんでした。

4:25 アダムは、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから。」4:26 セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュと名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。

アベルが死んでしまい、カインが去っていったので、神は新たに子を与えられました。「セツ」という子です。「土台」という意味です。エバはカインに希望を置きましたが、それは間違っていました。けれども、この子からメシヤが出る土台ができたと思っています。エバも神の救いについての計画をもっと理解しました。

そしてセツの息子エノシュから、「主の御名によって祈ることを始めた」とあります。神に目覚めました。みなで公に礼拝するようになった、ということです。神の名を忘れることなく生きる子孫を神が残してくださったのです。このセツの子孫を創世記 5 章の系図の中で見ることができます。その子孫がノアであり、ノアの家族が洪水から救われ、そして新しい世界で再び増え広がります。カインの道に対抗する、セツの道があります。

このように、罪が始まり、罪が増え広がりましたが、その中でキリストの希望を与えて、新しい始まりを起こしてくださいました。最後のローマ5章の最後の節を引用します。「それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。(ローマ 5:21)」恵みと命が支配します、そしてそれはカインの道の中に存在します。セツの道は大勢の中で抗うようにして、備えられています。狭い道ですが、しかし必ず恵みが支配するのです。